

## 令和2年度東播磨新地域ビジョン検討委員会 未来デザイン部会議事録

1 日 時 令和3年3月9日（火）13:30～15:30

2 場 所 加古川総合庁舎5階 AB会議室

3 参加者 9名（一般5名 行政4名）

4 内 容

### （1）東播磨新地域ビジョン骨子案(案)将来像と方向性について

事務局) 資料①の東播磨新地域ビジョン骨子案(案)をたたき台に、東播磨地域の新しいビジョンの将来像と方向性について議論をしていただきたいと思います。

委員) 若者アンケートから。東播磨は「災害が少ない」「住みやすい」「自然環境がある」「交通インフラが整っている」「子育てしやすい」などの意見があった。防災もそうだけど「地域との繋がり」を若い人が大事にしないといけない、デジタル化が進む中で地域との繋がりを大切にしたい、そういう東播磨にしていきたいという意見が出されているのでその辺りを将来像の中でどう活かしていくかがあればいいかなと思いました。

委員) 5の「めざすべき東播磨の姿」で、将来像を3つ書いてありますが、これが最終的なビジョンのイメージになるのでしょうか？

事務局) そうです。これまでのアンケート結果などから多かった意見をあげていますが、これでなければいけないという訳ではありません。

委員) これがゴールになると思うので、もう少しわかりやすく。現行ビジョンであれば4つのまちというわかりやすい形になっているので、皆さんの意見を聞きながらになると思いますが、もう少しわかりやすい切り口で分離できたら良いのかと思う。一つ目であれば「地域の魅力」二つ目「人の繋がり」など。「住みやすいまち」などももう少し具体的になれば良いと思いました。

次に6の方向性。私は方向性のイメージがつかなくて、ゴールに向かって進むアクションみたいなものかと思いました。方向性とゴールの関係性。

方向性は「～～東播磨」でまとめてはいますが、方向性とゴールの関係性がもう少し

し具体的にできれば良い。

事務局) 方向性も事務局の方で5つまとめている。5つでないといけない訳ではないので増やしてもいいし、減らしてもいい。

委員) 5つの方向性を具体的に書いたのが次のページのシナリオ？

事務局) シナリオも皆さんの意見を参考にし、少しアレンジした部分もあるがシナリオについても何かあれば意見が欲しい。

委員) 文字だけ見た時に、3番目の「軽やかに暮らす東播磨」が、イメージが湧きにくい。シナリオを見ているとICTとかの進展によって暮らしやすいイメージがあるのだと思いますが、もう少し具体的なサブタイトルがあれば良いかなと思いました。他は「自然」「エネルギー」などキーワードがあってイメージがしやすい。

委員) 若者アンケートについて、私はフィールドワークなどで兵庫大学のみなさんや神戸学院大学のみなさんと交流する機会があるが、それと比べてアンケートは非常にネガティブな感じが前に出ている気がする。

コロナで働き方が大きく変化している現状にも関わらず、都市志向型な回答が多いのも気にかかる。

将来像については、3本柱でこの内容で良いと思う。この中で何を一番にするか明白になれば位置づけが鮮明になるのではと思っています。方向性について、1~4は包括的に理解は出来ますけれど5に比べて具体性がない。5は非常に具体的でイメージがしやすい。1~4は何となくの理解は出来るけれど具体的にどのような方向を目指していくのかが読み切れなかったところがあった。

また4のシナリオに「結婚しなければならぬという固定観念がない社会」とあるが、どういう読み方をするのか分からない。主な項目については、別紙に記載しているので会議後ご覧いただきたい。

委員) 東播磨の目指すべき将来像、どういう表現が良いかというのが難しいが、全体として思うのが東播磨地域の特性を生かしながら、地域の課題と兵庫県全体で取り組まなければいけない課題があると思います。たとえば環境、経済、社会など

それぞれの課題は独立しているのではなく相互に関連していますので総合的に向上できるように取り組まないといけないと思います。そこには東播磨地域の新たな可能性を引き出して30年後も豊かな自然や歴史、伝統文化や人の繋がりを残しつつ、先進的な技術を取り入れ人生100年時代、何度でも挑戦でき持続可能な豊かさと成長が望まれる地域であってほしい。そういう願いがこの東播磨地域が目指していく将来像ではないかなと考えます。

また方向性について、

## 1 「自然と調和しだれもが暮らしやすい東播磨」

・緑と花があふれる環境が感受性の高い子どもの性格形成に役立っている…緑と花があふれるというと、現在学校の校庭に木が植えられていたり花が咲いている環境があるかと思うが、それと感受性の高い子どもの性格形成に役立つかという別問題だと思う。その関係性が見えてこない。今、いじめ問題の方が学校では深刻化している。東播磨地域のビジョンの美しいまちの指標で「住んでいる市・町で、自然の生き物（動物・植物）とふれあう機会があると思う人の割合」が平成22年に55.5%で令和元年には24.3%にまで減って県内ワースト1になっています。そのため自然の中で動物や植物に触れあえる環境にしてはどうかと思う。というのも平成19年度から小学3年生の授業の一環として環境体験学習が実施されてきました。小学3年生という人間形成に重要な時期に自然の中で五感を使って命の繋がりを命の大切さを学ぶということが学習の狙いとしてスタートしています。つくるときから私は関わってまいりましたが、最近はサツマイモやスイートコーンの収穫を楽しむ方に変わってしまっていて、それも生徒が行うのは収穫と植え付けだけで後は地域の方々にお任せしている状況になってしまっています。ですから本当に自然の環境の中で動物や植物と触れ合えるようにしてはどうかと思います。

そして人生100年時代になりますから、定年はなくなって働く意欲があれば何歳でも働ける環境になっていくかと思います。周りでも80歳を過ぎても働かれています方が大勢いますので、ますます元気な方は働くようになるのかなと思います。

## 2 「人がつながり、にぎわいのある東播磨」

・年中温暖な気候を生かしてウォーキング、ランニング、サイクリングなどの道を徹底して確保し、道沿いで名物にしたいものが売られているなどにぎわいのあるまち…30年後真夏は40℃超えになる日が増えていくかと思う。熱中症予防対策や昼間の外出は控えるようにとアナウンスされるようになるかと思う。そのため真夏は夕方から人が動き出すようになる。更に高齢化が進む地域では、観光客や周遊目的

で環境に優しいグリーンスローモビリティが既存の交通機関に代わって出来ていると思う。空飛ぶ車を利用して、夜間の沿岸を見てみようというような観光ツアーも出来てくるのではないかな。

### 3 「軽やかに暮らせる東播磨」

・車が空を飛ぶため、道路は廃止され効率の良い町づくりがおこなわれている…車が空を飛ぶため道路の廃止ではなくて、新たな道路の建設の必要がないという意味と捉えています。空飛ぶ車は、観光や僻地への物資の輸送とか災害時の人命救助など多様に活用されていると思う。また元気な高齢者が増えていくにつれて、外出が増えるために公共交通機関が遠いという理由で運転免許証を返納するのをためらう高齢者も増えていくが、免許証を返納してもデマンド型タクシーが地域のモビリティとして活かされている社会になっていると思います。

### 4 「ひとを創る東播磨」

世界一のシェアナンバーワン企業が東播磨にあるということですから、子どもの時からものづくりへの感心が高くなって、デジタル技術を駆使しバーチャル画面で様々な体験をしたり、3Dプリント技術による様々な分野での人材育成が進んで高校生や大学生の起業家が育っている環境になっているかと思う。

### 5 「エネルギーをつくり、地産地消のできる東播磨」

・水が豊かな東播磨は、天候も良く平地も多いため水素を発生させるための施設ができています…兵庫県は国に先駆けて 2050 年度にCO<sub>2</sub> 排出実質ゼロを目指すとして昨年 9 月に表明しました。再生可能エネルギーの代替に向けた技術改革や化石燃料に頼らない生活スタイルの転換を宣言しています。太陽光発電の拡大、電気自動車・燃料電池自動車の普及、水素エネルギーの積極的な活用。これらは東播磨にとって新たなビジネスチャンスになっているはず。新エネルギーとして期待されている水素を造る施設が出来ていると書かれていますがそれは省きますけれど、農業と太陽光発電を同時に行うソーラーシェアリングなどのスマート農業がかなり進んでいて、ドローンによる管理も行われていると思う。

また現在ため池ソーラーが稲美町の 88 箇所のため池のうち 20 箇所で導入されています。今後他地域でも進むと考えられます。ただ、所有形態が稲美町では土地改良区ですが、加古川市では財産区ということもありますし、ため池の景観、今まで見慣れた風景が変わってしまったとか、あるいは光害、パネルを貼ったことにより光が反射するようになって眩しいといった苦情が出てくるのが考えられます。生態系への影響もありますから、地域の合意が重要だと思っています。

それと温室効果ガス排出削減を行っても当面は温暖化の影響は避けられません。2050年には真夏の温度が47℃になるかもしれないと言われています。屋外の作業は健康面で危険になりますから、屋外での土木作業や農作業には遠隔操作ロボットが導入されるようになってきていると思います。既に川崎重工ではこの取組が行われています。

その他ですが、東播磨は海に面していますので、もっと海を活用するようなことがあっても良いのかと思う。温暖化の影響で海水温度が上がれば、海水温度が低い時に産卵するような魚類が、温度が低い方へ行ってしまう。勿論プランクトンも移動する。そこで水産において先端技術を駆使し、養殖が進んでいくのではないかと考えています。絶滅危惧種を救うバイオテクノロジーによる研究が東京海洋大学で進められておりました、冷凍技術でマグロの卵をサバに産ませるといったことも可能になってきています。そんなように先進的にかなり変わっていくのではないかと考えています。

委員) 若い人のアンケートを見た印象は、やっぱり高校生だなという感じです。ノリで書いているところとか。大学生を見ていても思いますが、「とにかく遊べる場所があってほしい」「都会であってほしい」みたいな意見はどうしても数的に増えてしまうというところはあって、その都会になる部分というのが東播磨の中にあるのか外にあるのかという辺りが気になります。若い人は漠然と自分の近くが都会になれば良いと思っているのかと思いますが、現実問題としてはどのような形なのかイメージはおそらく出来ていないように思います。その辺りで前から気になっているのが、前お話しするチャンスをいただいたときにもお話ししましたが、東播磨は中心がない。明確な中心がない地域だということ。例えば3ページから6ページのシナリオの中でも「中心市街地」とか「中心街」という言葉がいくつか出てきていますが、その中心市街地はどこだろう。東播磨の一番の中心市街地ってどこだろうというところが結構気になります。中心がないということは、通勤で姫路や神戸だったり外の地域との繋がりが強かったり、あと先端的な産業が近くにあることはありますが、先端的な産業が東播磨の地元の地域とどれだけ繋がりがいいのか。もっと大阪や東京など非常に大きな圏域で動いている産業がたまたま近くにある。地域とどれだけ繋がりがいいのか。街の中心にしてもそうだし、産業の中心もそうなのですが東播磨を明確にまとめる核がない地域だと思っていて、それがどのような将来像を描くのかというのは気になっています。だからといってこうすれば良い

という答えがすぐ出てくるものでもありません。中の繋がりが弱いのを繋ぎあわせる、ネットワークするような仕組みはどこかに必要だと思っています。

たまたま先日研究会に出る機会があり、そこで兵庫県の経済圏はどのようなものなのかという報告があつて、ちょうどこの部会があることは知っていましたので東播磨はどうだろうと思って聞いていました。経産省が出している地域経済分析の中では東播磨地域は丸ごと神戸の経済圏です。大都市雇用圏という東京大の先生が出している概念でいっても、東播磨は丸ごと神戸の経済圏。それからまた少し視点を変えて、産業の稼ぐ力の大きさを重視して、通勤圏と産業競争力も加味して経済圏を設定し直すと今度は、明石は神戸経済圏、その他の地域は姫路経済圏になる。その辺りもすごくあいまいな東播磨という地域。その地域としてのまとまりを重視するとすれば、その中での繋がりをどういう風に作っていくのか。身近なところでいえば、すごく先端をいっている臨海部の工場で勤めている人たちは一体どこで飲んでいるのか。東播磨地域のなかでどのぐらいコミュニティ、ネットワークがあるのか。また先ほど委員もおっしゃっておられた子どもたちのものづくりへの教育が臨海部の産業とどの程度繋がっていくのか。その辺り人、産業、自然、環境など色々ありますけれど地域の中である程度回るものを造っていかないといけないのかなと考えました。

委員) 多分高校生は30年後のこととかあまり考えていないと思います。急にアンケートが来たので答えたぐらいの感じで、普段は部活など他のことで手一杯でしょうし。

事務局) だから享樂的なことも書いてしまう。

委員) そうだと思います。それと東播磨だけではなく、播磨の気性というものがあつて、播磨では何か秀でることをやると打たれるという。そういう地域性。播磨は、西は赤穂、東は三木・明石まで。播磨は農耕文化なので、農業をするのに誰か一人が勝手なことをしてはいけない。水であつたり、様々な約束事があつてそれをみんなで協力してやらなくてははいけない。一人が勝手なことをするのではなく、みんなで周りの顔色を伺いながら昔の人たちは暮らしてきたという風に聞いています。

委員) 保守的ですよ。

委員) その代わり助け合うなど良い面も沢山ある。

委員) 祭りがさかんなところも、その辺りに関係しそうですね。

委員) そういうところはあると思います。

委員) そういう意味では地域性と、新しいものを受け入れてチャレンジできるというのが現実問題としては矛盾している訳ですよ。その辺りをどうしていくのか。お祭りというのは若い方にもかなり関心が高くて、お祭りはこのまま盛んであってほしいという思いはすごくあるので、それは活かしつつも内輪で結束しているだけではない、そういう意味ではもう少し都会的になる。それこそ軽やかに暮らすということなのかもしれませんけれど。

委員) 播磨も日本の縮図のようなところがあって、北部と南部でも違います。みなさん「とかいなか」ってよく言われます。都会に憧れて都会のことを真似したいけれど考え方は結構田舎であったりという傾向が見られます。

委員) 「東」播磨と分けていますよね。もともとは一つの播磨の国。五国から言えば、中も東も北も西も全部播磨で一体となっている。県民局などの関係で播磨が更に分かれている。この辺はどう考えたら良いのか。この辺は特に中途半端で、姫路より西に比べると少しは都会的で、明石は神戸を向いていたりまとまりでは難しいなというのが思います。

事務局) おっしゃっていた核がないということ。中播磨だと姫路、姫路城と核がある。

委員) 2市2町を東播磨市にしてしまったら。明石市は省いて。そういうことになれば新しく核もどこかに出来るかもしれない。昔はそういう構想もあったけど潰れてしまったから。中途半端といったら中途半端だけど、都市部も農村のような田舎とあって住みやすい。

委員) 企業で働いていまして、農業もやり地域活動もしてきた。東播磨というのがどこに向かっていけばいいのかちょっと見えないところがある。明石、加古川、高砂、稲美町、播磨町もそれぞれの特性がある。それぞれの特性を伸ばしていくべきか、一本化するべきか一度議論の必要があると思う。

事務局) 私は4月からここに来たけども、東播磨地域は間違いなく住みやすい。神戸に住んでいて健康に気を遣ってウォーキングをしようとしたら、どこも坂ばかり。左を見ても、右を見ても正面を見ても坂ばかりで歩く気もなくなる。東播磨だったら坂がなく平面でいつまでも歩いていられる。皆さん自転車で一生懸命活発に活動されている。天気も、神戸だったら山があるから時雨が起こりやすいが、東播磨は気候も温暖で晴れの日が多い。非常に過ごしやすく、暮らしやすいところ。外から見ないとわからない。中で住んでいたら良さがわからない。良さというのは東播磨地域に住んでいる人に実感してほしいという思いがある。また、良さを伝えていく。

委員) 私も住んでいていいところだと思う。雪が降ってということもないし、川の氾濫もたまにあるけど、これからあるかもしれないですが。住みやすいというのは本当に。平坦なので自転車でどこでもいける。住みやすいことを活かして、魅力があることをもっと伝えていけるように。

委員) 今年2月に大阪府高槻市の満足度調査の結果を見ましたが、91.5パーセントでした。東播磨地域では皆さんどれだけ満足されているのか気になる。

委員) 私の出身は北の方なので交通は陸の孤島だった。けど、東播磨はJRも通っているし、すごく便利なところだというイメージがあります。田舎だと欲しいものも手に入らないのですが、そういうこともない。元々ここで生まれ育った人はそれが当たり前で気付かない。

委員) 稲美町は国道も鉄道も通っていない。それでも稲美町の方は工夫をされていて、オシャレなカフェや美味しいお店を開いて、人を呼び寄せている。皆さん知恵を働かせて工夫を色々されている。



事務局) 稲美町は移住される方も多い。

委員) 都会から本当の田舎への移住に踏み切れる人はなかなかいない。そういう意味では東播磨という地域は行こうと思えば大阪に通勤も出来るし、ちゃんと田舎暮らしも出来る地域。産業もありますし、稲美町なども神戸新聞の奥様手帳を見ても面白そうなお店が多い。そういうことで現実的な選択枝として移住がしやすい。もっと注目されていい。

事務局) 選ばれていい地域ですよ。

委員) 稲美町はやはり農業。後継者問題など農業関係の問題はあると思う。稲美町は本当にオシャレなお店が増えてきた。外から人を呼び込もうという気持ちが伝わる。

委員) 将来的には商業と農業が一体化して人をもっともっと呼び込もうという。メロンもありますし、メロンパフェやイチゴパフェなんかを出したら人気が出ると思う。

委員) 農業の後継者がいなくなっている時期に来ている。これからは野菜を作る大きな工場が出来るようなそんな時代になるのではないかと思う。シーズンを問わず、あるいは天候関係なしに野菜を作っていくような拠点が東播磨に出来ても良いのではないか。生産を全てコンピュータで管理するスマート農業。

事務局) 5つの方向性とシナリオについて、何かご意見あれば。

委員) 5つの方向性については、3の「軽やかに暮らせる東播磨」が少しわかりにくいかな。5つということ自体はいいと思いますが、目指すべき姿と方向性というのが私の中で少し腑に落ちない。「自然と調和し、だれもが暮らしやすい東播磨」これは将来像ではないのかな？とか。取組の方向性というのはもう少し具体的なアプローチのことなのかなと。将来像と取り組みの方向性、そして具体的な内容というのがまた少し段階的な整理がしにくいのかなという印象がある。

委員) 将来像でも歴史や自然、と文面が長い。全部入れてしまおうとなるのかもしれないが、整理をしたほうが良いのではないか。また2番目は「～協働」で止まってしまっているのので、挑戦する意欲と能力の協働で、どんな東播磨を目指していくのか。生きがいを持てるようなものなのか。言葉で言うと、もう少し目指すべき将来像を考えてわかりやすくした方が良いと思う。方向性という中で、色々とシナリオがありますけれど、シナリオが長くて、読まないという意味がわかりにくいものが多いかなと思う。ぱっと見ただけで何が書いてあるのかわかる方が良い。もう少しわかりやすくした方が皆さんにもわかりやすくなると思う。同じぐらいの文字数だったとしても整理が出来るなら。

事務局) 整理はしないとイケない。意見をいただくために今はシナリオを突っ込んでいる状態。

委員) 健康、長寿、スポーツという分野は、方向性でいうと2に入るのか？これから高齢化もますます進むので健康ということ、スポーツもカローリングなどが加古川であるので、そんな地域で誰でも取り組めるようなスポーツを作って、「健康づくりに東播磨は力を入れている」と強調出来るようなものがあれば良いと思います。

事務局) 健康ははっきりとは書かれていない。

事務局) 今は入っていない。入れるとすれば2になるかと思う。「にぎわい」というところで、人がたくさんいるところをイメージしてウォーキングなどを2にした。

委員) 自転車でもどこでも行けるということは東播磨の特徴に関わることなのでその特徴を活かした方がいい。「暮らしているだけで健康になる」というような。おそらく若い方は健康のありがたさをそこまで実感しないので。

委員) スポーツ、健康を追加して6つの柱にしてもいいかもしれない。

委員) 6つも7つも増やしてしまうと、今度は散漫になってしまう。多分構成をし直して健康・スポーツを別に出すことになるのかなと思う。

事務局) スポーツは東播磨の特徴。強い。今度も東播磨高校が甲子園に出場する。

委員) 将棋もあるけど、スポーツではない。将棋も東播磨、加古川の特徴だと思う。

事務局) 項目に関係なく、スポーツ以外にも特性で入れた方が良いというものがあればご意見いただけたら。

事務局) 当たり障りがなく、どこでも通用するようなものが多いと読んだ限りでは思う。

委員) お祭りの話がない。お祭りとコミュニティみたいなものは東播磨の特性として出せるものだと思う。

委員) 祭りが文化の中に集約されてしまっている気はする。

委員) 目指すべき東播磨の姿で「歴史」というのが一番始めに出てきますが、3ページ以降のシナリオには「歴史」があまり出てこない。

事務局) 東播磨で歴史というとどのようなものが？誰もが知っているようなものの。

委員) 鶴林寺。黒田官兵衛もあるけど、日岡神社もある。歴史というか、施設はあってそこは皆さんあまり知らない人が多い。石の宝殿もそう。地元の人知っているけど。歴史もたくさんあるのだろうが、知られていない。

事務局) 若者アンケートで、「30年後でも東播磨地域に残っていてほしいもの」に歴史的建造物、石の宝殿などを高校生が挙げている。

事務局) 加古川城というのはあるのか？

委員) あった。加古川城の跡はお寺になっている。志方や神吉は別所についたが、加古川城は秀吉についたのかも。

委員) 常楽寺も、昔は下にもっと沢山のお寺を抱えていた、あそこのお寺はとて大きくて秀吉に焼き討ちにあった。

委員) アンケートで高砂市の歴史的建造物で挙がっているのが神社ばかりですが、旧市街地、堀川の辺りが色々面白い建築物などもあったりして、モダンなのですが意外と地元の方に知られていない。地元の方は当たり前と思っているかもしれない。

委員) 高砂は舟運で栄えていた。加古川に電車が通るようになってから加古川は栄えた。高砂は、旧市街地にJRが通らなかった。

委員) 東播磨に残っていてほしいものは、豊かな自然と歴史ある建造物、祭りなどの伝統文化、地域の繋がり、交通インフラなどが多かった。

事務局) アンケートを見ても観光客が少ない。それをものすごく皆さんが言われている。ひょっとしたら観光が県内で一番弱い地域かもしれない。だけど、先ほど出てきたようなキラッと光る建造物や歴史はある訳ですから、そこを何とか訴えてPRして。やっぱり外から人が来て賑わったら、地元の方は誇りに思えるようになると思う。実家が丹波市の柏原で、あんなに小さい町でも観光シーズンになるとバスでいっぱいになったりする。

委員) どっちが先かの問題だと思う。自分たちが知って誇りを持つことで人がやってくるというところがあるし、人がやってくるから自分たちも誇りを持つところがあるし。この辺りに大きい観光施設ができて、人が沢山やってくるというようなことはおそらくこの地域ではきっと違うだろうということを考えると、地域の若い人たちが知って、誇りを増していくというプロセスが重要なと思う。

事務局) 実際アンケートとって誇りに思っている施設や建造物はわかっている訳ですから。

事務局) 先ほど議論にあがった「今の生活に満足している人の割合」の全県アンケートの結果、東播磨地域では71.4%の人が「満足している」に回答していて、10地域で6位。全県平均が74.1%、一位が阪神北地域。今年度の最下位は但馬地域。

委員) 福井県は住みやすい県で人気がある。但馬地域は福井と同じように日本海側だけれど。強みはよりPRしていけたら。

事務局) 3の「軽やかに暮らせる東播磨」は、電気自動車などの人の移動が軽やかになったりとか、そういうイメージでつけた。

委員) シナリオに合うようなキャッチフレーズに変えていっても良いのでは。今までなら「水辺」という言葉が入っていたけど、今回一つもない。「水辺」といえば、ため池もそうだし加古川の川の保全など生き物や植物も含めた自然をどうするか。今年度までの分が「水辺ともものづくり」だったのをどうするか。もう少し違う言葉でため池や川などの水辺も大事にしていけるようなのをどこかに入れていく方が良い。ため池は東播磨地域に多いので。

ため池は農業専門の池なので、管理など今後どうしていくかという問題はある。おっしゃったように加西などはため池にソーラーパネルを置いていたりする。

委員) 兵庫県の環境施策の方で、ため池のソーラーにすごく関心を持っていてお金も3000万円貸してくれる。勿論期限があって、20年。権利は県にある。県は進めたいのだなと思いました。西播磨の方では小水力発電の調査をするなら500万円(補助率1/2)というような話を環境管理局長がオンラインでされていた。

委員) 東神吉の周りの田んぼもソーラーパネルになった。休耕田で誰も作っていないので。田んぼを売ってソーラーパネルにするというのがまた広がってきている。淡路島も東側は太陽光が多い。

委員) 瀬戸内の晴れている日が多い地域なので。

委員) 私は生物多様性の保全活動をしているのでどちらかといえば水素エネルギーを推進してほしいと感じる。

委員) 景観的にも、色んなところにソーラーパネルがあって、池だったところがソーラーパネルになる、あるいは山の斜面の一区画がソーラーパネルだらけになってしまうなどの折り合い。景観を守るべき所とエネルギーを重視するところの仕分けをしないといけないだろうと思います。

委員) ソーラーパネルを進めすぎると違った問題が起こってくる。山を削ってソーラーパネルにすると、災害のときに雨がたくさん漏れてきたり、木を切り倒すのでどこかで訴訟になっていた。また、家が近くにあると反射でもめてしまう。

委員) 進めるべきところと規制すべきところはあると思うが、エネルギーが自給自足出来る地域というような側面からすればプラスになるのかな。そういった環境のシナリオもありましたよね。

委員) エネルギーや農業も地産地消。農業も6次産業化。お聞きしたいのが、農業。これから30年後地産地消を東播磨で出来るようになるのでしょうか。本来、そうならないといけないと思うが。工場も出来るとのことですが、いかがでしょう。検証を見ていても、兵庫県は十分力を入れていると思うが。

中国など外国に頼ってばかりいると、食糧が入ってこなくなるとアウト。そういうことも考えていったら30年後にはよくわからない世の中になっている可能性もある。それをどこかで地産地消出来るようにしておかないといけない。

事務局) 余談ですが、この間稲美北中学校に行って学校給食をいただく機会があった。局長が「小中学校時代の給食が美味しくて今でも忘れられない」と東播磨高校の生徒に話を聞いて、「それは売り出せるのではないか」と言うことで。お邪魔して給食をいただいたところ、確かに本当に美味しい。食材は勿論地元稲美町の食材を使っている。お米も稲美町の特産のお米。それをずっと子どもは覚えている。

それはすごいこと。稲美町の栄養士さんや給食メニューを作られる方がすごいというのも勿論あるが、食材もものすごく良いのだと思う。

委員) 稲美町は6年生になると最後の給食ということで、地産地消の食材で作った料理をバイキング形式で食べられるらしい。それがすごく思い出に残るらしい。稲美町の給食はナンバーワンという声は多く聞く。

委員) 稲美町の給食は10年連続で近畿農政局長賞をもらっているという記事を新聞で見た。

委員) 稲美町辺りがため池を活かしたソーラーパネルというエネルギーの地産地消と、農業の地産地消というモデル地域になっていくのかなと思う。東播磨のフィールドステーションも力を入れているようですが、そこを是非農業にも力を入れてもらって、水産技術センターもありますのでどこかの大学と協力してもらって、漁業もテクノロジーで活かして頑張っていってほしいと思う。

委員) 明石もやっている。今からだとイカナゴのくぎ煮のシーズン。年々高くなっている。

委員) イカナゴは冷水性の魚なので年々厳しくなっていくと思う。海水温が上がる。夏の間は眠る夏眠をするが、海水温が28℃を超すと夏眠のまま起きてこず2、3割程度死んでしまう。北海道以北では海水温が低く夏眠はしない。段々厳しくなっている。イカナゴが食べるプランクトンも温度の低い方へ移動していくのでそれも原因の一つ。

委員) イカナゴのくぎ煮文化、風物詩がなくなってしまう。

委員) 絶滅危惧種を救うという意味でテクノロジーを使って研究をしてほしい。加西の農業技術センターでも、暑くても食べられるお米の研究をしている。

委員) 取組の方向性で、「自然と調和し、だれもが暮らしやすい東播磨」という

のは二つの意味が入っていますよね。そうすると、「ロボットと共に過ごしている」というシナリオは「誰もが暮らしやすい」というところに入るのですが、「自然と調和し」というところからすると離れている気がする。柱立てを作るとすれば2つの意味じゃない方が良く、5つの違う意味があって、それが5本の柱。そういう風にしないと、ごちゃごちゃしてしまう。柱立てが一つの意味になるような、「だれもが暮らしやすい」と「人をつくる」と「人」に関するテーマが多くて、シナリオをどこに入れるということもあるので、その辺り整理が必要かなと思います。

委員) 3は「軽やかに移動出来る東播磨」など「移動」を入れたら。新たな移動手段とか、新たなテクノロジーとかが連想出来て良いと思う。

委員) 「軽やかに動ける東播磨」はどうだろうと思ったりした。「移動」とかそういうキーワードが入るとわかりやすくなる。

委員) 全県ビジョンを見ている58ページに「軽くなる住まい」というのもあるので、そんなイメージかと。

委員) 家事をやってくれるロボットがあるというのは嬉しい。

委員) 洗濯板が洗濯機に変わっていったような技術の進化。農業もそうだと良い。

委員) そういうロボットがどうかというのがあるからか、若者アンケートで30年後誰と暮らしていきたいかで、「一人で暮らす」というのが500名以上もいた。

事務局) 高校生の今、独立したいという気持ちが強いからかもしれない。

事務局) 「一人で暮らす」と回答した人で、他の欄では「AIと暮らしたい」「AIと結婚する」と書いているのが何人かいた。

委員) ノリで書いてしまっている部分はあると思う。



委員) 東播磨地域は面積でいうと小さい。県の3%ぐらいだけど、人口では71万人と3番目。けど、30年後には28万人ということになっていて、かなり減る。今の加古川市一市だけの人口とほぼ同じ。そうなると経済がどうか言っている場合ではなくなる。全国的な問題でもあるし、その辺りどうやって人に来てもらえるか、最初に話をした「住みやすい町」にして出来るだけ人に来てもらう。東播磨だけ人が来れば良いという訳でもないが。

事務局) そうなると工場が回せなくなるので、外国人が増えてくる。

委員) シミュレーションからすれば外国人は増えるかもしれない。靴下など小規模の中小企業など後継者がいないという問題もありますし。ただ産業をとってみても人口が減るという厳しさはある。

委員) 30年前に比べても外国の方が増えた。小学校も30年前には外国の子は殆どいなかったが、今はむしろどこの学校にも外国の子がいる。言葉の壁がやはり問題になっている。親に日本に連れてこられて日本語が書けない、わからない。外国人学校がある訳でもないので、各学校が頭を悩ませている。シナリオには入っていないけれど、外国の方が入ってくるのであればシナリオに「多文化共生」は入れないといけないのではないかな。

委員) 我々が子どもの頃は、韓国や北朝鮮出身の方はいらっしゃったが他の国の人は殆どいなかった。そんな方とも一緒に祭りが継承できたらいい。どこの国にも祭りはあると思う。そういうのが出来たら楽しくなるのではないかな。

委員) この辺りは、地域の人でないと発言権がないみたいなことがあるのですか？

委員) そういうことをしてたら人がいなくなるから、ないとは思う。今は出て行った人も、時期になったら戻ってきて祭りの神輿を担いでいる。これから人がいなくなったら、友達が来て担いだりが出来るようになるかもしれない。

高砂の浜手は祭りだらけ。姫路まで祭り一色で、仕事よりも祭りが大事。

事務局) 加古川はどうか？

委員) 稲美町はある。天満大池に神輿を投げる祭りがある。

委員) 大学にも担ぎ手のボランティアの依頼が来たりします。

委員) そうやって、人と繋がらなくても暮らしていける一方で、人と人が繋がることも大事。その辺りで地域のあり方を考えていかないと。老人会や婦人会がなくなっているところも結構ある。老人を世話するのが嫌だと言って、老人が増えているのに、老人会が潰れる。世話する人がいればいいが、世話をするのは嫌だと言う人が増えている。

委員) 今は80歳まで働く方が増えている。辞められると周りも困るので、時短になっても働く。定年枠もなくなって、意欲のある方はいつまでも働ける。

委員) 年金が貰えないから。年金だけでは暮らしていけない。働ける方は働いてという風にこれからなっていくでしょう。

委員) 人との繋がりを断ち切りたくなくて、サークルなどにずっといたいと思うような人もいる。

委員) サークルなども寛容になっていくことが必要か。誰もがいつでも参加して、いつでも休めるような組織に。昔はある程度の縛りをかけていたが、今は逆なのかもしれない。

事務局) 今日いただいたご意見はまとめてまた後日皆さんに送付する。4月と5月に1回ずつ未来デザイン部会を開催し、6月に検討委員会で集まって課題解決部会と一緒に作ったものを作り上げる形。骨子案は8月には出来ていないといけない。6月の検討委員会ではまとまった形で皆さんにお示し出来るようにする。骨子案をもっと練った形となる素案の検討が8月から。

今日いただいたご意見は事務局でまとめて、次回の議論に結びつく形で議事録を

作成しみなさんに送付させていただく。